

問 財政を踏まえた 事業管理と評価は

答 効果的な仕組みを全庁で検討する



新政とうかい
かわさき かつひこ
川崎 克彦 議員

問 村における事務事業の評価手法は。

答 事業の所管課が、

当年度の事業実績を基に次年度の方向性を示して自己評価を行う。

結果は村長を本部長とする「地域戦略推進実行本部」で共有している。また、「改善」「見直し」と評価された事業は、次年度の予算編成に先立って協議し、改善等の検討を行っている。

問 事務事業評価の根底にある考え方やポイント、課題は。

答 目標と成果を明確にし事業の達成度を検証、事業の選択と質の向上、外部財源の効率的な活用を目指すもの。しかし、効果が低いと評価された事業でも、住民等への影響を考慮すると思

切った見直しに踏み込めないことや、評価に応じた予算調整までできていないことが課題である。

問 財政経営も含め、今後の課題対応と評価の進め方は。

答 厳しい財政状況を迎える中、事業の見直しによる歳出削減の効果的な仕組みを全庁一丸で検討する。

問 財政経営も含め、今後の課題対応と評価の進め方は。

答 厳しい財政状況を迎える中、事業の見直しによる歳出削減の効果的な仕組みを全庁一丸で検討する。

問 財政経営も含め、今後の課題対応と評価の進め方は。

答 厳しい財政状況を迎える中、事業の見直しによる歳出削減の効果的な仕組みを全庁一丸で検討する。



まちづくりの羅針盤と事務事業評価の基となる実施計画

問 子どもたちの声で 校則は変わるか

答 声を反映し校則を改善していく



新政とうかい
みやもと しやうた
宮本 翔太 議員

問 校則は、時代や社会の変化に応じて見直すべき教育的ルールであるとの認識か。

答 児童生徒の発達段階や社会の変化を踏まえ、見直すべきものと認識しており随時見直しを行なっている。

問 「まちづくりの羅針盤」に掲げる「こども・わかもの声を聴き、まちづくりに反映するしくみ」は、学校現場でどのように実践するのか。

答 オンライン上で「みんなの放課後」をテーマに小

中学生の声を聴く取り組みを予定している。また、学級活動等を通じて課題を見いだし、対話や合意形成を行い、よりよい学校生活づくりに取り組んでいる。

問 現行の校則に、合理性が乏しいルールや抽象的な文言、多様性への配慮が不十分な規定は存在しないか。

答 校則は随時見直してきたが、現状で十分とは考えていない。今後、児童生徒が主体的に校則の見直し等に関わる取り組みを一層推進し、内容や表現についての見直しを進めるよう助言していく。



新しく導入されたジェンダーレス制服